開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年	2	必修
担当教員			
豊田 正明			

授業のねらい（概要）	本特別演習 I では、DPに記載のある調査・研究のために必要となる様々なスキルを身につけ、経済法、とりわけ独占禁止法領域における諸問題に対し、高度な判断能力、理論的分析能力を身につけます。また、具体的な審決例などを通し、実践的な問題解決能力及び、論理的思考能力を養い、知識共盤社会を支える高度で知的な素養を養成します。詳細な内容としては、独占禁止法並びに関連法領域に関する理論から実務的問題点までを総合的に指導する。また、修士論文の執筆に関して、総合的・体系的に基礎知識を身につけます。
授業計画	<p>第1回 【遠隔】ガイダンス 一年間にわたるゼミの内容決定と修士論文作成に向けての注意および指導をおこなう。 予習（時間）：大学院のゼミとはどういうものか調べて知識を得ておく。（120） 復習（時間）：今後のスケジュールと内容を把握する（120）</p> <p>第2回 【遠隔】論文とは、卒論発表 各人が学部の時に作成した卒業論文の発表と検討をおこなう。 予習（時間）：卒業論文の見直しと再検討をしておく。（120） 復習（時間）：発表された他人の作成した卒業論文を検討する。（120）</p> <p>第3回 【遠隔】卒論と修士論文との違い① 各人が学部の時に作成した卒業論文を修士論文にする場合にはどうしたらよいかの検討をおこなう。 予習（時間）：卒業論文の見直しと再検討（グレードアップ）をしておく。（120） 復習（時間）：指摘された内容の卒業論文への当てはめ（120）</p> <p>第4回 【遠隔】卒論と修士論文との違い② 各人が当てはめを行った卒業論文改良版の発表と検討をおこなう。 予習（時間）：再度卒業論文の見直しと再検討（グレードアップ）をしておく。（120） 復習（時間）：再度指摘された内容を卒業論文へ当てはめる。（120）</p> <p>第5回 卒論と修士論文との違い③ 各人が当てはめを行った卒業論文改良版の発表と検討をおこなう。 予習（時間）：再度卒業論文の見直しと再検討（グレードアップ）をしておく。（120） 復習（時間）：再度指摘された内容を卒業論文へ当てはめる。（120）</p> <p>第6回 【課題】修士論文のテーマ選び① 修士論文と卒論とテーマがリンクしていない場合のテーマ選びとその検討をおこなう。 予習（時間）：修士論文で研究したいテーマをピックアップしておく。（120） 復習（時間）：検討して選んだテーマを再確認する（120）</p> <p>第7回 修士論文のテーマ選び② 修士論文と卒論とテーマがリンクしていない場合のテーマ選びとその検討をおこなう。 予習（時間）：修士論文で研究したいテーマをピックアップしておく。（120） 復習（時間）：検討して選んだテーマを再確認する（120）</p> <p>第8回 【課題】修士論文の題名と章立て① 修士論文のタイトルと章立ての検討をおこなう。 予習（時間）：修士論文の題名と章立てを考えておく。（120） 復習（時間）：章立ての再確認を行う。（120）</p> <p>第9回 修士論文の題名と章立て② 修士論文のタイトルと章立ての検討をおこなう。 予習（時間）：修士論文の題名と章立てを考えておく。（120） 復習（時間）：章立ての再確認を行う。（120）</p> <p>第10回 【課題】各章の概要の検討① 修士論文の各章の概要を検討する。 予習（時間）：修士論文の各章の概要を考えておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要を再度検討する。（120）</p> <p>第11回 各章の概要の検討② 修士論文の各章の概要を検討する。 予習（時間）：修士論文の各章の概要を考えておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要を再度検討する。（120）</p> <p>第12回 各章の概要の検討③ 修士論文の各章の概要を検討する。 予習（時間）：修士論文の各章の概要を考えておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要を再度検討する。（120）</p> <p>第13回 各章の概要の検討④ 修士論文の各章の概要を検討する。 予習（時間）：修士論文の各章の概要を考えておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要を再度検討する。（120）</p> <p>第14回 各章の概要の検討⑤ 修士論文の各章の概要を検討する。 予習（時間）：修士論文の各章の概要を考えておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要を再度検討する。（120）</p> <p>第15回 修士論文全体の概要確認 これまで指摘された修士論文の各章の概要をまとめる。</p>

第16回	予習（時間）：修士論文の各章の概要をまとめておく。（120） 復習（時間）：修正された各章の概要についてまとめた内容を再度検討する。（120） 資料収集と検討① 修士論文に必要な資料を検討する。
第17回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討② 修士論文に必要な資料を検討する。
第18回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討③ 修士論文に必要な資料を検討する。
第19回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討④ 修士論文に必要な資料を検討する。
第20回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討⑤ 修士論文に必要な資料を検討する。
第21回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討⑥ 修士論文に必要な資料を検討する。
第22回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討⑦ 修士論文に必要な資料を検討する。
第23回	予習（時間）：修士論文に必要な資料は何かを調べておく。（120） 復習（時間）：必要な資料の吟味を行う。（120） 資料収集と検討⑧ 修士論文に必要な資料を検討する。
第24回	調査ないしは研究結果の発表① 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第25回	予習（時間）：文献調査と成果の発表準備をする。（120） 復習（時間）：指摘された箇所の修正と文章の再構成を行う。（120） 調査ないしは研究結果の発表② 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第26回	予習（時間）：文献調査と成果の発表準備をする。（120） 復習（時間）：指摘された箇所の修正と文章の再構成を行う。（120） 調査ないしは研究結果の発表③ 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第27回	予習（時間）：文献調査と成果の発表準備をする。（120） 復習（時間）：指摘された箇所の修正と文章の再構成を行う。（120） 調査ないしは研究結果の発表④ 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第28回	予習（時間）：文献調査と成果の発表準備をする。（120） 復習（時間）：指摘された箇所の修正と文章の再構成を行う。（120） 調査ないしは研究結果の発表⑤ 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第29回	予習（時間）：文献調査と成果の発表準備をする。（120） 復習（時間）：指摘された箇所の修正と文章の再構成を行う。（120） 調査ないしは研究結果の発表⑥ 文献調査の結果とそれを用いた具体的な発表をする。
第30回	今後のスケジュールと展望の確認 予習（時間）：今後のスケジュールと展望の確認発表準備をする。（120） 復習（時間）：今後のスケジュールの確定を行う。（120）
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	調査・研究のために必要となる様々なスキル、経済法、とりわけ独占禁止法領域における諸問題に対し、高度な判断能力、理論的分析能力
到達目標	修士論文のテーマ設定から文献及び資料探索までを行い、修士論文の骨格を作る。中間発表ができるようにする。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	ゼミの始めに前回の知識確認を行う。
履修上の注意	基本書の通読、専門雑誌、外国文献及びニュース等で取り扱われる独占禁止法等に関する記事等をできる限り読み、現在のトピックスや現実の動きに注視すること。
成績評価の方法・基準	毎回の研究報告及び学習意欲を主として総合的に評価する。
教科書	履修者の研究テーマを踏まえて、決定する。

参考書・教材	【参考書】履修者の研究テーマを踏まえて、決定する。【教材】履修者の研究テーマを踏まえて、決定する。
備考	<p>演習科目</p> <p>2020年度は、6、8、10回を課題研究として学修する。</p> <p>第6回 「修士論文のテーマ選び①」について修士論文のテーマをいくつか選び、レポートを作成する。レポート内容の指示・確認等を5、6回の対面授業やmellyの指示で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第8回 「修士論文の題名と章立て①」について修士論文の題名と章立てのレポートを作成する。レポート内容の指示・確認等を7、8回の対面授業やmellyの指示で行う。全体で330分の学修を想定している。</p> <p>第10回 「各章の概要の検討①」について各章の概要についてなるべく具体的に検討しレポートを作成する。レポート内容の指示・確認等を11、13回の対面授業で行う。全体で330分の学修を想定している。</p>
教員との連絡方法	メール（講義の初めに周知する）